

触

Shokun

2026 年 2 月 6 日 [金] → 11 日 [水・祝]

10:00-17:00

広島市立大学 芸術学部棟 5 階

551 CA+T ラボラトリー および 屋外農空間予定地

入場無料



主催 | 広島市立大学

協力 | 広島市立大学現代表現領域、石倉敏明、川本誠

令和7年度大学における芸術家等育成事業「ひろしまアーツカレント 里山と川辺の複数種共有空間を開いて、ハイブリッドな学びの場を創発する」



関連トーク イベント

ISHIKURA Toshiaki
石倉敏明

『外臓』としての山と里

―複数種の関係から考える―

秋田を拠点として東北地方や国内外で神話や芸術人類学の研究を行い、アーティストとの共同制作など人類学と芸術を架橋する活動を行っている人類学者の石倉敏明さんによるスペシャルトークを開催します。

石倉さんがこれまでフィールド調査をされてきた東北の山や里で伝承されてきたシシ踊りや虫送りの芸能、マタギとクマの事例をもとにして、『外臓』としての「山と里」についてお話をさせていただきます。私たち人間とその身体を構成している「内臓」と、人間をとりまく環境や他の生物を「外臓」として、全てのものを連続する一つの大きな循環として捉えるとき、私たちは他の生物や物、世界との関係性をどのように変容していくことができるのでしょうか。また、人間の過度な生産・経済・軍事活動によって破壊・攪乱された自然環境下でもしたたかに生き、ときには繁栄さえする他の生物種に着目するとき、私たち人間は連続する循環の一部としてどのように「害」ではなく「益」となる存在になることができるのでしょうか。本トークは今年、広島市立大学でスタートしたSIMの活動と東北や他地域での状況や活動を繋ぎあわせてみることで新たな視点や思考を開いていこうとする試みにもなるはずです。皆さま、この貴重な機会にぜひお誘い合わせのうえトークにお越しください。

2026 年 2 月 8 日 [日] 12:00-13:30

出演 | 石倉 敏明（人類学者、秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻・大学院複合芸術研究科准教授）

モデレーター | 長坂 有希（アーティスト、広島市立大学芸術学部講師）

会場 | 広島市立大学情報科学部棟 3F 313 Lounge

参加費 | 無料

事前申し込みは不要です。当日会場にお越しください。



石倉 敏明 ISHIKURA Toshiaki

1974 年東京都生まれ。アジアや日本各地でのフィールド調査をもとに、複数種をめぐる芸術人類学研究、アーティストとの共同制作、展示企画を行う。2019 年、第 58 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際芸術祭日本館展示「Cosmo-Eggs I 宇宙の卵」に参加。共著書に『Lexicon 現代人類学』『動物をえがく』人類学 人はなぜ動物にひかれるのか』など。

